（54頁より続く）ところでこの二つの性質に分かれる原因として、精神薄弱児の知能と始歩期には因果関係が存在したが、普通児のばあいは因果関係がほとんどまったく存在しないことがかんがえられる。すなわち、普通児のばあい、始歩期に関係あるものとしては体重、季節、などが考えられる。

なお、バリオ(Variot)とゴーチュ(Gotcu)は、五百人の子どもについて、始歩期と身長、生下時体重、始歩期の体重、生歯の状態、栄養、性などの関係を研究し、筋肉の強さや神経機関の発達が影響のあることを論じている（千九百二十七年）。

このように、始歩期には、体重、季節など知能の発達以外の原因がいろいろ存在するが、これは、ゲゼルが、「始歩期は知能の発達に、ある幅のひろい関係をもつが、検査者(Examiner)は個々の例にたいして臨床的斟酌をする方法を知らなければならない（千九百二十八年版）という大きな理由であろう。そして、これらの関係にかんする研究は、現在あまり進んでおらないが、この原因として、ラシュリー(Lashley)とマッカシイ(Mc Carthy)の研究によれば、歩行に至るまでの種々の行動の時期のみが関心事となり、それらの行動が獲得される過程や意味にたいして、じゅうぶんな分析がおこなわれていないことがあげられている。

七、結　論

以上の結果、次のことが言える。

一、普通児にあっては始歩期の若干の遅速は知能とまったく関係がない。

（知能指数八十以上の者五千二十六名の知能指数と始歩期の相関係数γは マイナス〇・二九一であった。$N♂=2922$ $\gamma♂=0.33$ $N♀=2284$ $\gamma♀=-0.205$）

二、精神薄弱児の知能と始歩期のあいだには、一般に生理的な因果関係が存在し、始歩期がおくれる。

三、普通児にくらべて精神薄弱児はわずかであるために、幼児全体をひとまとめにして考えると、知能と始歩期の相関関係は、（精神薄弱児の人数を約三パーセントと推論したばあい）存在しても非常にひくい。

× × ×

× ×

幼児の教育　第五十五巻　第五号
定価　五十円
昭和三十一年四月二十五日印刷
昭和三十一年五月　一　日発行
編集兼発行者　津　守　真
東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会
東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
印刷所　凸版印刷株式会社
東京都板橋区志村町五番地
発売所　株式会社フレーベル館
東京都千代田区神田小川町二ノ五
振替口座東京一九六四〇番
◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願い致します。